

喉仏やわいナイフで切り落とし
国旗がきれいにはためている

うずたろう（埼玉県）

鋭いはずの「ナイフ」が「やわい」ことがまずおそろしい。国家というものは国旗を「きれいにはため」かせながら、声を奪うようなおそろしいことをやってのけるのだ。

雪の降る音のように壊れていく日
をあなたが縫い合わす もういい

白野（新潟県）

雨と違って耳に届かない「雪の降る音」。他の音も吸収しながら、ますます静かにしんしんと「壊れていく」ほうが、取り返しがつかず徹底的な気がします。どんなに「あなたが縫い合わ」せてくれてももう元には戻らないことを<私>は知っている。一字分の空白のあとの最後の「もういい」の断念に胸を衝かれます。

じゃんけんに
あいこで人に生まれたわ
握れば水になる牡丹雪

郡司和斗（茨城県）

まず、言葉のしらべに魅力を感じました。そして、じゃんけんに勝ったのでも負けたのでもなく「あいこ」だったから「人に生まれた」に、自分が人間であることに肩の力が抜けるような心持ちになりました。最終行は、美しい結晶を留めておけない人間の業のようにも、燃える命を持っていることのかげがえのなさのようにも響いてきます。

吹きッ晒しのバスセンター

悲しみを積もらせない造り

最上葉途（山口県）

やわらかくおおらかな世界のとらえかたに惹かれました。寒々しいバスセンターが今までとは違って見えてきます。詩の言葉はものの見方を一新してくれる力を持っています。

しりとりをする子
きりとライオンのぬいぐるみを
ぎゅっと抱きしめている

広田 土 (大阪府)

しり通りの仲間に入れてもらえない「きりん」と「ライオン」を、ちゃんと大事だよと伝えるように「ぎゅっと抱きしめ」る。その子を見つめる語り手のまなざしを通して、子どもの持つ感受性というものを教えられます。

ここに星 あそこにも星

指し示す
母の人差し指のあかぎれ

さいう (愛知県)

語り手にとっては、星よりも「母の人差し指のあかぎれ」のほうが尊くきらめいている。

とうめいな器に
ぞん、と冷麺を盛って

ひとりでいると決めた日

さいう (愛知県)

「ぞん」の力強さに語り手の気概が伝わってきます。同じ作者には他にも「オカリナを吹くとき／ぼくのくちびるは／つんとポピーのように色づく」の「つん」、「担任はもぎもぎ／首の皮を揉み／子どもはみんな嫌いだと言う」の「もぎもぎ」、「あたらしい靴を鳴らして／たんぽぽの道を／ぼぼたんぼぼたんに行く」の「ぼぼたんぼぼたん」、「段ボール箱を／ばきよっと踏みつぶし／君が始める海賊ごっこ」の「ばきよっ」、「くすぐれば／わふあふ と言って逃げていく／犬の毛並みはおうごんの風」の「わふあふ」など、作品を印象づける魅力的なオノマトペが多数ありました。

かりん酒を漬ける
じっちゃんの横顔を
ふっくらさせて夕焼けは来る

さいう (愛知県)

「かりん酒を漬ける」という未来の楽しみへとつながる作業、「じっちゃん」という呼び方、その「じっちゃんの横顔を／ふっくらさせ」る「夕焼け」が、すこやかな一日の終わりを告げている。すべてがあいまって、じんわりとこの世の豊かさが伝わってきます。

大掃除

小壺に眠る愛犬の

居場所は皆で やさしく無視する

さくらママ♪（兵庫県）

「小壺に眠る愛犬」のかつていた場所は、抜けた毛が落ちていたり、遊んだあとが残っていたりするのでしょう。誰も口にださずとも今はまだ愛犬の痕跡を残したままにしておこうという家族の心のありようが胸に沁みます。

子のウソに

気付かぬふりをする時は

連名にされるのかしら閻魔殿

さくらママ♪（兵庫県）

同じ作者による「煙突なし／寝室にテラスなし／小窓のみ／サンタへ子が記す／オートロック No.」とともに、コミカルな味わいですが、どちらの作品からも子を尊重し見守っている親の姿（愛）が存分に感じ取れます。

すいーとぽてとって言ってしろく

なる息きえるのはみんなさみしい

藤ほたる（神奈川県）

ひらがなで書かれた「すいーとぽてと」、たどたどしい言葉の運びが「さみしい」感情を際立たせていて、よるべなさが胸に押し寄せてきました。

採れたての野菜や卵、

死にたての魚が並ぶ朝市へ行く

猫谷圭希（広島県）

「採れたての野菜や卵」にみずみずしさを感じていたら、二行目の「死にたての魚」で世界の見え方が一変。「朝市」の様相が翻り、人間が求める“新鮮”なものは、命をそこで断ち切られたものであるという厳然たる事実を突きつけられます。

主人を失い
パスワードは
宙を舞い続ける

降旗 沃（東京都）

「パスワード」は「宙を舞い続け」、もう二度と開かれることのない場所が世界には至る所にあるのですね。同じ作者による「あと一億年／見つからない／洞窟もある」も秘められたものへと思いが及んでいます。

朝一
手紙を書くには
十分な
広さだ

武中 義人（岡山県）

「朝」のあとのダッシュと余白、二行目以降も改行によってゆったりと運ばれる言葉と「手紙を書く」という丁寧な行為が「朝」という時間と空間を明るく広げています。

ぐつぐつと金柑煮込み苦味消す
無かったことにはできないけれど

湯たんぼ（宮崎県）

何一つ「無かったことにはできない」。それでも私たちは生きていかなければならないし、生き抜くための方法をそれぞれが持っているのでしょう。

他にも心動かされる作品がたくさんありました。
来月も楽しみにしています。